

平成26年度第3回平塚市行政改革推進委員会議事録
(敬老祝賀事業)

開催日時 平成26年8月3日(日) 14:30～15:30
場 所 平塚市勤労会館 中会議室(2階)
出席委員 青木委員長、後藤副委員長、芦川委員、出雲委員、露木委員、常盤委員、
臨時委員
臨時委員 (市職員) 渡部主任
出席者 企画政策部長、企画政策課長、財政課長、
企画政策課(課長、課長代理、主管、主任)
高齢福祉課(課長、課長代理、主任)
傍聴者 31名
議 題 事業評価
敬老祝賀事業

【委員長】

「敬老祝賀事業」 について事業所管課、事務局から説明をお願いします。

【高齢福祉課(事業所管課)】

事業評価シートに基づき説明する。

【事務局(財政課長)】

この事業について全体的な視点から見た説明を行う。

○昭和40年の時点で敬老祝金事業があり、当時は500円から2,000円の現金を渡していた。その後様々な見直しを行い現在に至っている。

○超高齢社会を迎え、介護保険など高齢福祉への行政需要は非常に増加している。

平成17年度の見直しから約9年が経過しており、この事業のあり方について検証いただきたいと考えている。

【委員長】

ただいま、事業所管課、事務局から説明がありました。

ではこの事業について、事業所管課、事務局への質問及び意見交換を行っていきたいと思います。

ご質問のある委員の方はいらっしゃいますか。

【C委員】

3点お尋ねします。

以前、平成25年度の検証結果で「おおむね成果があがった」と聞いている。

「おおむね成果があがった」ということだった。

祝品の金額が1つ2,000円程度である。

以前防災グッズをいただいた高齢者の方が使い方が全くわからないということをお話していた。どういう基準で祝品を決めているか。

【高齢福祉課】

他市で現金配布が多いなか、平塚市は早い時期に祝品配布に切り替えている。

金額は2,000円程度だが、みんなが喜んでもらえるものということで品物を選定している。

欲しいもののアンケートをとると、1位が現金、2位が商品券、3,4位くらいで実用品、記念になるものであり、その点を考慮し、実用品か記念になるものとしている。

【C委員】

平塚市は今後も祝品を配布していくということか。

平成17年の改正から約9年たつ。見直しの段階に来ていると思うが考えは。

【高齢福祉課】

平成17年の改正以降も常に見直ししている。

今後も祝品を配布していく考えである。

【委員長】

見直しの際に考えるのは効果である。

いただく人がどう思っているか効果を計るが、あるいは周辺、地域の人はどう考えているかの効果がある。

それらの人にアンケートを取っているということだが、アンケート結果と異なる内容を行っているがどうなのか

【高齢福祉課】

アンケートは平塚市でとったものではない。

何がほしいか聞くものでもないのでアンケートを取る予定はない。

現金が1番かもしれないが、他市の状況等から祝品は何か良いかを考え行っている。

【委員長】

するとC委員からあった「おおむね成果があがった」というのはどういうことか。

現金配布が1番だが、品物配布で効果があがっているというのはどういう考えなのか。

【高齢福祉課】

人間の心理として現金が1番というのがあると思う。

ただ、市の事業として行う場合、現金でなくてはならないということでないため、本人が喜ぶ品物を配布するようにしている。

【C委員】

資料P26で今後の見直し予定が「有」としている。

「おおむね成果があがった」という「おおむね」で市が納得していない部分があり、何か見直しをしようと考えているのか。

【高齢福祉課】

市として今考えられるベターなやり方で行っている。

常に見直しを行っていくため、見直し予定「有」としている。

「おおむね」とした理由は、生存確認も兼ねているが、昨年何人か会えない人がいたためによる。

【D委員】

88歳の方は祝品を民生委員が配布しているとあるので、民生委員に頼んで祝品がどうかのデータはとれないか。

【高齢福祉課】

民生委員からも意見をいただいております、改善点は改善している。

【D委員】

この点を踏まえ改善していきたいということか。

【高齢福祉課】

改善点は担当者も変わっても引き継ぎ、改善し行っている。

【E委員】

祝品をいただいた方から聞いた話だが、メッセージカードをなくしていたり、自治会から祝金はいただいたことは覚えているが、祝品はどのようなものか忘れてしまったと言っている。

私見になるが、現金やクオカードを渡すことでお年寄りが外出することにつながると

思う。副次的効果も考えられるがどうか。

【高齢福祉課】

外出促進は福祉でも重要なテーマである。
クオカードは参考としたい。

【A委員】

事業説明シートP23 事業費内訳で、謝礼金20万円は民生委員へのものか。
メッセージカード作成業務委託料が目立つ。P24で地域作業所で作っているとあるが地域作業所のことを教えてほしい。

【高齢福祉課】

謝礼金は民生委員へのものである。
地域作業所は「山晃央園（さんこうえん）」であり障害者就労支援施設である。

【A委員】

メッセージカードは障がい者の方が作成しているというのもあるが、なくしてしまう人もいるということもあると何らかの見直しをしたほうがいい。
祝品は100%満足するものはない。
ベターなものは現金になってしまうが、現金やクオカードを渡せばいいというものではないと思う。
祝品を継続することは理解しているし、他市と比べても予算規模は大きくない。

【高齢福祉課】

メッセージカードは地域作業所で作成後、市長直筆のコメントを入れて配布している。
1,000人分で37万円の部分をいらぬということかどうかについて、地域作業所の励みにもなっているため、当課では必要のある経費と考えている。

【副委員長】

高齢者は今後増え続ける。他市を見ると南足柄市は100歳のみを対象としている。
高齢者への敬意と財政的負担を両立するとなると、敬老祝賀事業以外の事業に事業費を配分して行っていくのも1つだし、年齢要件を絞ることも1つだと思う。

【高齢福祉課】

高齢者が住む地域で安心してらせる地域を作ることが課題と考えている。
安心安全のため事業のスクラップビルドも行っている。

今後この事業がスクラップにならないとは限らないが、今なくすタイミングではない。
88歳にしたのは、男女とも平均寿命より少し上の年齢で、米寿を祝うということもあっているが、今後平均寿命が延びてきた場合見直しの時期になると思う。

【副委員長】

各市との情報交換は行っているか。

【高齢福祉課】

県内各市と情報交換を行っている。

【B委員】

祝品配布は反対ではない。

99歳祝品の単価が1,806円になるが、定価、仕入れ値は。

【高齢福祉課】

88歳祝品はお茶で価格指定物品（2,000円）とし、入札参加資格業者3社が2,000円出せる最高のお茶を当課職員が試飲等を行い決定している。

99歳祝品（記念品）は鎌倉彫のお盆であり、定価3,200円のものを入札し仕入れている。

【B委員】

今後お年寄りの数が増えると事業費も増えてくる。

今後も事業継続するためには単価を絞っていったほうがいい。

この事業の人件費について、配布する市長の人件費は入っているか。

【高齢福祉課】

市長の人件費はこの事業費内訳には入っていない。

【B委員】

市長は何人くらいの人に祝品を手渡ししているのか。

市長の人件費はどの程度か。

【高齢福祉課】

30数名だと思う。それ以外の方は市職員が渡している。

市長の人件費は計算しないと出ないが、市長は1日半かけて行っている。

【B委員】

多くの市民が市長からの配布を希望すると大変では。

【高齢福祉課】

基本人数を超えた場合は、昨年度伺った方はお断りすることになっている。
ただ、現状は希望者全員に市長から手渡しできている。

【B委員】

このしくみを、例えば集まりの会に変えるとか、成人式の高齢者バージョンにするような考えはあるか。

【高齢福祉課】

今後は市主導でなく、地域が自主的に高齢者を見守っていただく、元気な高齢者がそうでない高齢者を見守るしくみになりつつある。各地区で工夫して敬老の事業を行っている。

他市では高齢者の成人式版を行っているところもあるが、人工、費用対効果を考え、現状どおりとしている。

【E委員】

健康寿命という考え方が浸透している。

単に長寿がめでたいという時代は変わってきているのではないか。

【高齢福祉課】

健康寿命も承知しているが、長寿はそれだけでめでたいことと認識している。

ただ、健康寿命を延ばすことは考えていかなければならないため、介護予防の見直しは考えている。

【委員長】

今回の事業評価では事業の目的に対し様々なアプローチ法から最適なものを選び、事業の最適な進め方がされているか評価している。

何故高齢者に敬意を表し、長寿を祝うか。これにより何を目的とするのかをもう1度考えてほしい。

副委員長の話にもあったが、目的到達に様々なアプローチがある。

それを含めてこの事業が本当に残すべき最適な事業なのか。

生存確認についてもいろいろなやり方があり、民間を使う手もある。

事業の目的に向けてどうしてもこの事業を残す理由を教えてください。

【高齢福祉課】

長寿の祝いは本来、家族、地域（近所）で行うものである。

ただ、家族と併せて公的な市が行うことで、市民みんなでお祝いしようということになる。

◎各委員の評価理由

【A委員】

障がい者が行き、単価も高くないことはわかっているが、メッセージカード委託料は見直してほしい。まだ見直しの余地はあると思う。

【C委員】

提案になるかもしれないが、地域では自治会等の主催で敬老会を開催している。

こういうものへ金品配布でなく、市として何か心の支えとなるようなことはできないか。

【E委員】

88歳の年齢要件を見直し、その分を健康寿命の延伸に向けてほしい。

メッセージカードは見直すべきだと思う。

【D委員】

生存確認は別の方法でもできると思う。祝品は2品用意し選択制にしてはどうか。

【B委員】

今後高齢者が増えるため、事業継続のためにコスト減を考えてほしい。

祝品はいいものを安く仕入れ提供してほしい。

メッセージカードは高額になっているので見直したほうがいい。

【副委員長】

事業費総額を決め行ってはどうか。

健康寿命に重点を置くことはよい。

【委員長】

廃止に近い見直しであり、抜本的に考え直してほしい。

効果がわからない。民生委員を通じてでもアンケートを行うようでは。

お年寄りが元気であることは否定しないが、安い金額とはいえ、このような形で使うことが適正か判断に悩む。

他に有効な手段があればそちらに使ってほしい。

お年寄りが元気になったとか、地域が活発になったとかは計れないが、それを抜きでは進めない。難しいが効果を計ってほしい。

以 上